

# 敦賀発電所 敷地内破砕帯について

平成25年5月10日  
日本原子力発電株式会社

# 1. 規制委員会有識者会合とのこれまでの議論

## (1) これまでの経緯

平成24年

12月1,2日 ◆有識者会合 現地調査

12月10日 ◆評価会合(第1回)  
・当社から、評価の状況やK断層の追加調査について説明。  
・「D-1破砕帯は活断層である可能性が高い。」との結論付け

12月11日 ◆「公開質問状」を提出

平成25年

1月28日 ◆評価会合(第2回)〔当社への出席要請なし〕  
・評価書案について、有識者のみで議論。「D-1破砕帯は活断層である可能性が高い」とのまとめ。

2月 5日 ◆評価書案に対する見解、D-1破砕帯に関する中間報告書を提出

3月 8日 ◆評価会合(第3回)  
・当社から、新たなデータも含めて説明。有識者と質疑応答。  
◆ピアレビュー〔当社への出席要請なし〕  
・評価書案の結論を変更する必要なし。

3月11日 ◆第3回評価会合の審議の問題点に関する要請文書を提出

3月15日 ◆D-1破砕帯に関する中間報告書(その2)、評価書案に対する見解を提出

4月24日 ◆評価会合(第4回)  
・当社から、新たなデータも含めて説明。有識者と議論。

約12万年前の火山灰に関する追加データ、K断層が2号機原子炉建屋方向には延びないことを示す追加データ、有識者コメントを踏まえたD-1破砕帯等の最新(最後)のずれの向きに係る追加データ等を補強

・有識者は、当社のデータが不十分であると主張し、また、有識者の従来からの推論に依拠して、評価を変更する必要はない旨の議論を展開。

・島崎委員長代理は「十分に議論した」として議論を打ち切り。現時点での判断として、評価書を取りまとめていくとした。

4月26日 ◆第4回評価会合の議事運営に係る問題点に関して要望書を提出

- ・技術的な決着を見ないうちにデータが不十分であるとして一方的に議論を打ち切ったこと
- ・議長的な立場で、個人的意見により議論を誘導しようとしていたこと
- ・傍聴者に向かって事実に基づかない事柄について説明をしたこと 等

## (2) 第4回評価会合(4月24日)での議論の状況(D-1破砕帯及びK断層の総合評価と主なコメント)

### ◆ K断層はD-1破砕帯ではなく、 2号機原子炉建屋まで延びない

(薄片観察結果)

- ・K断層はD-1破砕帯(G断層含む)と変位センスが異なる。

〔K断層：逆断層の変位センス  
D-1破砕帯(G断層含む)：正断層の変位センス〕

(追加のLカットピット、西側ピットの地質観察結果)

- ・K断層は岩盤まで達し、D-1トレンチ内で走向がN-S方向からNW-SE方向に変化する(基盤内で確認した)ことから、2号機原子炉建屋まで延びないことが示唆される。

(B14-2ボーリングの追加の薄片観察結果)

- ・D-1トレンチ南方のB14-2ボーリングにおいて、断層ガイジが3箇所確認されたが、K断層の特徴である逆断層の変位センスは認められなかった(いずれも正断層の変位センスである)。
- ・したがって、K断層は少なくともB14-2ボーリングよりも南方には延びないと判断される。

### ◆ G断層はD-1破砕帯である

- ・走向傾斜が類似している。
- (追加の薄片観察結果)
- ・D-1破砕帯とした破砕部(D-1既往露頭、ボーリング、D-1トレンチ、2号機背後斜面)について、薄片観察を追加実施した。
- ・D-1破砕帯及びG断層とも正断層の変位センスであることから、G断層はD-1破砕帯である。

### ◆ D-1破砕帯(G断層含む)及び K断層は後期更新世以降に活動していない

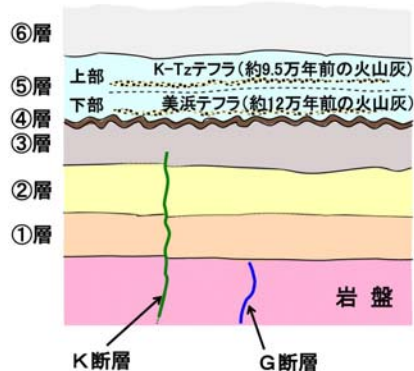
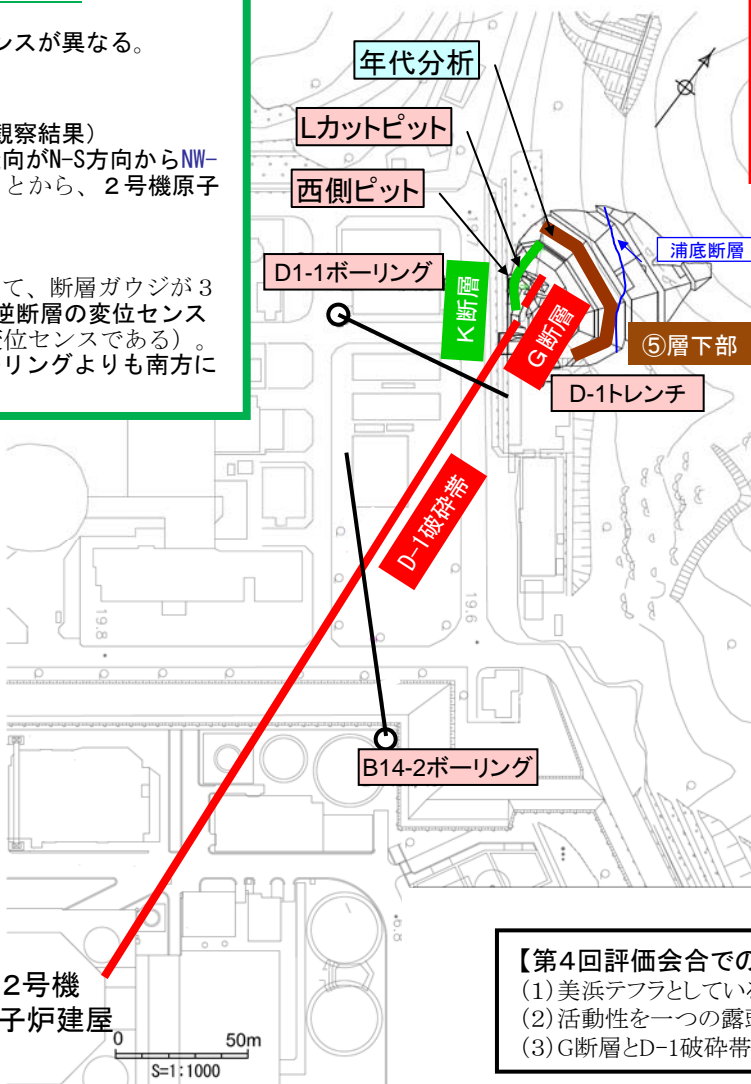
(D-1トレンチの追加の年代分析結果)

- ・D-1破砕帯(G断層含む)及びK断層は、⑤層下部に覆われる(両者は⑤層下部の地層が堆積した以降は活動していない)。
- ・⑤層下部で追加実施した年代分析の結果、⑤層下部は約12~13万年前頃の地層と判断された(美浜テフラが検出された(DMPとは異なる事、③層中の角閃石は美浜テフラでは無い事を確認))。
- ・したがって、⑤層下部に覆われるK断層及びD-1破砕帯(G断層含む)は、約12~13万年前以降に活動していない。

青字は4月24日時点での新たなデータ

### 【第4回評価会合での主なコメント】

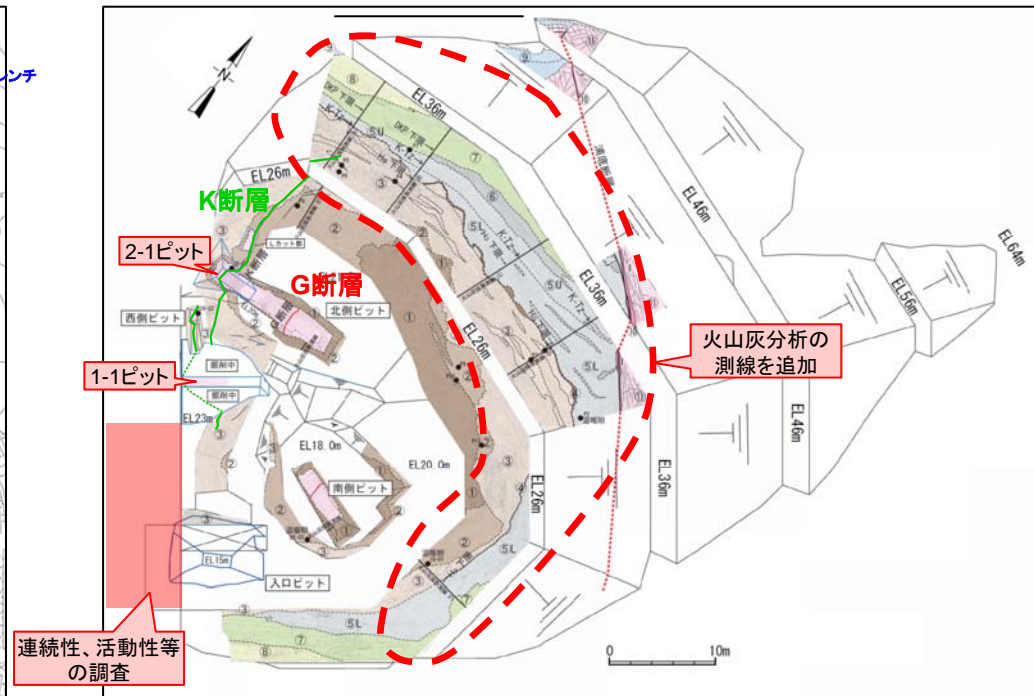
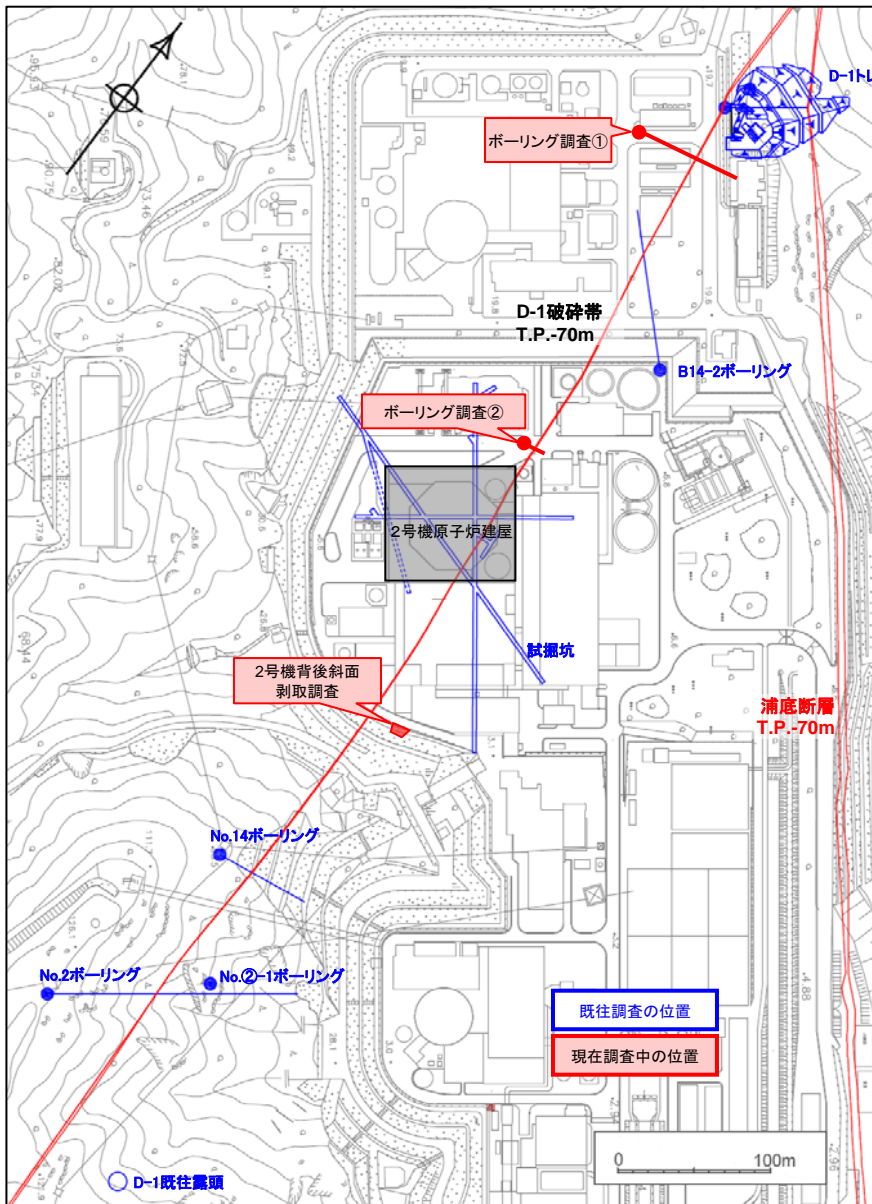
- (1) 美浜テフラとしている火山灰は少量であり、信頼性が低い。
- (2) 活動性を一つの露頭でしか確認していない。
- (3) G断層とD-1破砕帯とが同一であるとする主張は根拠が明確でない。



D-1トレンチ地質層序(イメージ)

D-1破砕帯及びK断層は、後期更新世以降の活動はない。  
したがって、耐震設計上考慮すべき活断層ではない。

## 2. データ拡充のための調査計画



### 【データ拡充のための主な追加調査内容】

#### ◆ 破碎帯の連続性

- ・ D-1破碎帯とG断層及びK断層の関係について、2-1、1-1ピット及びその周辺で調査中。 [コメント(3)にも対応]
- ・ 2号機原子炉建屋周りでのK断層と同じ逆断層センスの有無を調査中。(ボーリング①②) [コメント(3)にも対応]
- ・ ピット調査で、変位センスが分かっているK断層の最新活動面の条線を数多く取得し、統計的に整理し、変位センスの信頼性を示していく。 [コメント(3)にも対応]

#### ◆ 破碎帯の活動性

- ・ D-1トレンチ前面の道路部で活動性評価のためのピット調査を追加実施。 [コメント(2)にも対応]
- ・ D-1トレンチ内で火山灰分析の測線を追加し、地層の年代についてより一層の信頼性向上を図る。 [コメント(1)にも対応]
- ・ 美浜テフラの模式地(気山)で、年代が明らかな火山灰との関係を確認し、美浜テフラの年代をより明確にする。 [コメント(1)にも対応]

これらを6月末を目途に実施する。